

平成27年度 南アルプス市立落合小学校 前期自己評価書		平成27年8月17日(月)
学校長 志村雄二		記述者 教頭 新津友子
学校教育目標 「心豊かで たくましく よく学ぶ児童の育成」		
◇本年度の取組重点		
<p>①どの子にとっても分かりやすい授業をめざし、基礎基本の「習得」とそれらを「活用」しての「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。 (特にすべての学習の基盤となる読み・書き・計算力は9割以上の定着を図る)</p> <p>②授業の中で積極的な生徒指導を行い、いじめ・不登校のない学級・学校を目指す。</p> <p>③通常学級・特別支援学級の連携をふまえ、特別支援教育推進に向け校内支援体制の一層の充実を図る。</p> <p>④「落合小生活のきまり」「落合小学習のきまり」を学校生活の基とする。また、児童とともに「落合小こびっとルール」を作り、これに全員で取り組む。</p> <p>⑤読書習慣、辞書利用習慣、家庭学習習慣を含めた学習習慣を育成する。また、学習に主体的に取り組む学習習慣を育成する。</p> <p>⑥生涯を通じて健康な生活を送るために必要な食習慣、衛生習慣、運動習慣等の生活習慣を育成する。</p> <p>⑦児童会活動を通して、より良い学校生活づくりのために協力して諸問題を解決していく力を育成する。</p> <p>⑧「地域ふれあい道徳事業」「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」に取り組む。</p> <p>⑨安全点検・登下校指導・避難訓練を計画的に行い、安全・安心な環境で生活できるようにする。</p> <p>⑩情報を積極的に発信・受信して家庭・地域・関係機関との連携を深め「開かれた学校づくり」を推進する。</p>		
I 全体評価		
<p>今年度は、「本年度の取組重点」を意識して評価項目の文言を変更した昨年度の経過を受け、「本年度の取組重点」を意識して評価を行った。自己評価は、【A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない】の4段階評価で実施した。</p> <p>本年度第1回の自己評価結果は、総合的に見ると多くの質問内容で、肯定的な回答が大勢を占め、総じて評価は高い。</p> <p>「学校教育目標」 ①～④ (A・B：100%)</p> <p>「学校経営・組織」 ①～⑥ (A・B：98%)</p> <p>「学習指導・生徒指導」 ①～⑥ (A・B：93.8%)</p> <p>「地域との連携」 ①～⑤ (A・B：99%)</p> <p>「学校の特色」 ①～③ (A・B：98.3%) となっている。</p> <p>いずれの項目においても、肯定的な意見が90%を超える結果となったが、「学習指導・生徒指導」は、Cの「ややそう思わない」という評価がある。</p>		
II 各項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)		
1 「学校教育目標について」		
達成状況	<p>・①～④まで、すべてが「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。</p> <p>・①「学校教育目標達成のため、実態に即した学校経営構想《グランドデザイン》が作成されている。」については、70%が「A：そう思う」と評価し、②～④全てにおいて「A：そう思う」が過半数を超えている。</p>	
改善策	<p>・行事や活動後、事後の反省を着実に実施し、課題や改善策を明らかにし、全職員が共有することにより、確実に活かすように努めている。今回の学校評価結果についても、職員の共通理解のもとに目標や具体的な方策を講じていく。</p>	
2 「学校経営・組織について」		
達成状況	<p>・①、②、④、⑤、⑥については、「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。③については約5%、「改善を必要とする」との回答が出ている。</p> <p>「協力体制が素晴らしいので、メンタル面でも助けられている。」という意見があった。</p>	

改善策	<p>「週2回の終礼にかける時間が長すぎると思います。もっと効率を考えて行うべきだと思います。」「放課後、教材研究や学級事務を行う時間が取れると良い。」という意見があった。</p> <p>○終礼の効率化について…朝礼が無いことで、朝の時間を丸付け等の学級事務や児童との交流に当てることができている。終礼は職員の情報共有や討議等、重要な意思統一の場になっており、効率化して継続してほしい。効率化の手立てとして、インフォメーションを活用したい。終礼で扱いたい内容についてインフォメーションから入り、入力することで、短時間で着実に内容を共有することができる。</p> <p>○放課後の時間確保について…全てにおいて時間を守ることで対応していきたい。</p>
3 「学習指導・生徒指導について」	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・①については「C：ややそう思わない」が21%あり、「A：そう思う B：ややそう思う」の割合が79%で、全項目の中で最も低くなっている。 ・⑤、⑥については、「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。②、③、④については、約5%「改善を必要とする」との回答が出ている。 <p>「先生方が責任と意欲をもって取り組んでくださり感謝しています。」「学力向上に積極的に取り組んでいる。」「行事の精選を行い、学習時間の確保も行っていきたい。」「家読など家庭の協力も得ながら今年度進めていき、子供たちの力を伸ばしていきたい。」という意見があった。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県学力把握調査、全国学力・学習状況調査や1学期の学習評価の結果を基に、授業改善を図るとともに、TT等を効果的に活用する。 ・特に山梨県学力把握調査、全国学力・学習状況調査の結果については、当該の学年だけでなく全職員での共通理解を図り、取り組む。 ・家庭学習の取り組み・漢字チャレンジ・チャレンジテスト・チャレンジルーム等に取り組み、児童の意欲を引き出す指導を行い、基礎基本の習得と学習習慣の向上を図る。
4 「地域との連携について」	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・①、②、③、⑤については、「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっているが、④は約5%、「改善を必要とする」との回答が出ている。 <p>「気になる児童や支援が必要な児童への対応は全校体制で、これからも取り組んでいただきたい。」「地域の方々の安全確保に対する姿勢には頭が下がります。ありがたく思います。」という意見があった。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も「学年だより」「学校だより」等により発信するとともに、保護者や地域の感想や意見を受信し再発信していく。 ・保護者や地域の意見に丁寧に対応することで、信頼される学校づくりを推進する。 ・地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かしていく。 ・すももの里応援団の応援があがたい。ボランティアの方々に喜んでいただけるような学校づくりを進めていきたい。
5 「学校の特色について」	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・①、③は「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。②は約6%、「改善を必要とする」との回答が出ている。 <p>「本校の経過が分からないが、教育を語る会などの機会を学校・家庭・地域の連携を図る場となるような活動をしたい。」という意見があった。</p>

改善策

- ・特別支援教育は本校の特色の一つである。通常学級における、個に応じ特性に応じた指導について研修を深め、実践力を身につけていく。
- ・各学年の総合的な学習において地域を教材として取り上げている。今後も学年を超えて情報交換しながら地域教材を開発し、郷土を誇りに思えるような実践を行っていく。
- ・教育を語る会など、今ある活動に工夫を加え、学校・家庭・地域の連携を図る場となるような取組をしていきたい。(地域の講師など)

Ⅲ 児童へのアンケートによる評価

1 「学校生活について」(項目：①，⑩，⑪，⑫)

◇「①学校が楽しいか」の項目は、94.2%が肯定的であった。

- ・児童が意欲的に取り組み、達成感を感じることができ活動や学習を増やしていく。また、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答している児童については、原因を探り、個別に丁寧に対応していく。

◇「⑩掃除活動」「⑪きまりや約束」「⑫児童会活動・学校行事」の項目は、90%以上の児童が肯定的な回答である。特に「⑩掃除活動」は98.5%の児童が肯定的評価であり、児童会本部、6年生が中心となり児童会活動として取り組んだ成果が表れている。

- ・発達段階に応じて一つ一つの活動の意義や目的を十分に伝え、自律的に取り組めるよう促していく。今後も児童が自主的な活動によって自分たちの学校が良くなっていると自覚できるような指導をしていく。落合レンジャー(あいさつレッド・ゴミゼロホワイト・かしこイエロー・仲良しピンク・マナーグリーン)の活躍が取組を楽しくし、目標達成に貢献している。

2 「授業について」(項目：③，⑤)

◇「③授業がわかるか」の項目について、92%が肯定的であった。

- ・概ね肯定的であるが、「あまりわからない」「わからない」と回答している児童の声を真剣に受け止めなければならない。教職員の自己評価において最も課題が多かったのも学習指導であることを踏まえ、授業改善を図っていく。校内研究や一人一実践と関連させて「どの子にもわかる授業づくり」をする必要がある。

◇「⑤授業中の発言」の項目については、肯定的な回答は約69%であり、アンケート全体の中で最も低い評価である。本校の最大課題と捉え、校内研究や授業改善の成果が上がるように努める。

- ・今年度の校内研のテーマ『学び合い高め合う児童の育成を目指して～「学び合い」のある授業づくりを通して～』を今後も共通理解のもとに実践していく。授業の目標を明確にし、児童の思考や発言の場を適切に設定し、全ての子どもが意欲的に取り組めるよう指導していく。

3 「友達・教師との関わりについて」(項目：②，④)

◇「②仲良く遊ぶ友達」の項目は、肯定的評価が96.3%、3.7%が否定的回答であった。

- ・全体としては、概ね良好な関係が築かれていると考えられるが、これからも児童の行動や様子を観察する中で、適切な対応を迅速に図っていく。
- ・職員全員で情報交換を行い、気になる児童や出来事には全職員で対応していく。

◇「④困ったとき話ができる先生」の項目は、肯定的な回答が84.2%となっている。

- ・担任だけでなくすべての教職員が児童とのふれあいを大事にしていく。気になる児童については、こちらから声をかける。

4 「家庭での生活について」(項目：⑥，⑦，⑧，⑨)

◇「⑥宿題の他の自主学習」については肯定的な回答が 74.2%，「⑦学校のことを話すか」は 88.5%，「⑧たより・通知を渡すか」97.8%，「⑨地域の人との挨拶」は 97.1%と概ね良好である。

- ・「家庭学習の取り組み」が効果を上げてきていると考えられる。今年度は、今までの取組に加え、本校の課題であり、学力向上の基礎となるであろう読書活動の振興を家庭との連携のもと勧めたいと考え、1 学期末から「家読」にも取り組んでいる。また、基礎基本の充実と児童の学習意欲向上を主な目的に、2 学期から全学年共通の漢字チャレンジに取り組む計画である。できたことを確認し喜び合える学習環境づくりをしていきたい。
- ・あいさつについては、今後も児童会を中心にした取組を行っていくとともに、道徳や学級指導でも積極的に指導していきたい。

IV 保護者アンケートによる評価

1 「子どもの姿」(項目：①)

◇「学校は楽しいところだと思うか」の項目については、94%が肯定的な意見であり、4%が否定的な回答であった。

- ・多くの保護者が、「児童にとって、学校は楽しいところだ」と感じている。これは教職員の日々の努力の成果であり、今後も継続していきたい。一方、わずかではあるが、否定的な意見があることも真摯に受け止めていきたい。個々の課題については、担任だけでなく、全職員共通理解のもと、具体的に対応していく。

2 「保護者と学校の連携」(項目：⑥・⑦)

◇「学年部会等は、連携を深めるのに役立っているか」については、96%，「学校からの通知等は、学校の様子を知る機会になっているか」については 99%が肯定的な回答である。

- ・「学校だより」「学年だより」等の発行や「一日学校開放日」の開催により、学校の様子を知ったり、連携を深めたりするのに役立っているという意見が大勢を占めている。家庭の事情で、授業参観等に参加できない場合もあると考えられるので、電話や連絡ノート等活用し家庭との連携がさらに深まるように取り組んでいきたい。

3 「学習指導・生活指導」(項目：②・③)

◇「基礎的な学力が身につくようなわかりやすい授業をしていると思うか」については、91%が肯定的な意見であり、7%は否定的な回答であった。

「決まりを守る態度やその大切さを教えていると思うか」については、93%が肯定的な意見であり、5%が否定的な意見であった。

- ・「学習指導」「生活指導」とともに、多くの保護者が「とても思う」「思う」を選択している。教職員の日々の実践や発信の成果であるといえる。一方、わずかであるが「あまり思わない」という回答がある。教職員自己評価や児童アンケートの結果も合わせて考え、校内研究の実践や個々の研修をさらに進めていく必要がある。今後とも、学習指導においては、「わかりやすい授業づくりや個別指導」等工夫して対応するとともに、チャレンジテストやチャレンジルームを通して児童の意欲を喚起していく。また、家庭学習の取組等によって、さらに家庭との連携を図っていく。生活指導においては、「学習のきまり」「生活のきまり」をもとに児童会活動や学級活動を通して、より良い学校生活づくりのために協力して諸問題を解決していく力を育成していく。

4 「家庭での様子」(項目：④・⑤)

◇「家族や地域の人にあいさつをしているか」については80%、「基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身についているか」については、82%が肯定的な意見であった。

- ・あいさつについての児童アンケートでは、97%の児童が「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか」について、「よくしている」「している」を選んでいる。家庭でのあいさつにも取り組んでいく。家庭学習も含めた生活習慣については、「家庭学習の取組」や「通学班指導」等により一定の成果を上げることができてはいるが、さらに一層、地域・家庭・学校と連携を図り、生活習慣の確立や規範意識、公共のマナーの向上を目指していきたい。

V まとめ

- ・取組重点(落合小学校の状況をふまえた教育活動：特色ある教育)に基づき、全職員の共通理解のもと教育活動を行うことができている。
- ・教職員の自己評価・保護者アンケートともに、全体的に肯定的な評価が多い。A評価が低い項目もあるので、さらなる学校教育活動の充実を目指し取り組んでいきたい。
- ・教職員一人一人が日頃の教育活動を見直していくとともに、それぞれの校務分掌において具体的な改善策を提案し、全職員で共通理解して取り組んでいきたい。
- ・この結果を資料として学校関係者評価委員会に提案し、意見聴取・交換会等を実施することで、更なる学校教育の向上を図っていきたい。

<2学期からの取組重点・具体的な改善策まとめ>①～⑥

- ①終礼の内容充実と時短→インフォメーションの活用
- ②児童アンケート「授業中に発言や質問を言うことをしますか。」肯定的評価 69.2%を改善する取組の強化(子どもはもっと「発言したい」「質問したい」と考えていることが分かる。)→授業の目標を明確にし、児童の思考や発言の場を適切に設定し、全ての子どもが意欲的に取り組めるよう指導していく。校内研とも関わらせながら、授業改善に取り組む。
- ③児童アンケート「宿題の他に家で自主勉強をしますか。」肯定的評価 74.2%を改善する取組の強化→今年度は、今までの取組に加え、本校の課題であり、学力向上の基礎となるであろう読書活動の振興を家庭との連携のもと勧めたいと考え、1学期末から「家読」にも取り組んでいる。また、基礎基本の充実と児童の学習意欲向上を主な目的に、2学期から全学年共通の漢字チャレンジに取り組む計画である。これらの学校での取組が家庭での自主学習のひとつとしても取り組めるように考えている。できたことを確認し喜び合える学習環境、学校づくりをしていきたい。
- ④児童アンケート「困った時に話(相談)ができる先生がいますか。」肯定的評価 84.2%を改善する取組の強化→担任だけでなくすべての教職員が児童とのふれあいを大事にしていく。気になる児童については、こちらから声をかける。
- ⑤児童アンケートの挨拶に関する文言を「家族や地域の人にあいさつをしていますか。」に変更する。→あいさつについて、児童の評価と保護者の評価に17%もの開きがある。アンケート文言の違いによる可能性がある。家族へのあいさつも大事なので、保護者の文言に合わせ、家族にも地域の人にも挨拶ができるように指導する。
- ⑥携帯やスマホ、ヘルメットの所持、携帯・スマホの使い方についてはPTAとしても取り組む。また、生活習慣の改善による学習習慣の確立等の視点からも取り組んでいく。